

第15回トシリズムマブのRA適正使用研究会

-福岡 RA 生物学的製剤治療研究会-

※RA：Rheumatoid arthritis=関節リウマチ

【開催日時】2019年10月4日(金)

【参加者】看護師：中野/福高、薬剤師：斜木、リハビリ部：鶴田/岡田/城ヶ崎

Opening Remarks：近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤 正一先生



【基調講演】

「トシリズムマブ皮下注射製剤の関節破壊抑制効果」

九州大学大学院医学研究院 整形外科 教授 中島 康晴先生

【特別講演】

「生体イメージングでみる

RA 骨破壊の実体と生物学的製剤の in vivo 作用機序」

大阪大学大学院医学系研究科/大学院生命機能研究科 免疫細胞生物学教室
教授 石井 優先生

「New technologies make new concept！」

新しい効果の発見や、新しい技術の応用を考える

【基調講演】

IL-6 阻害薬における抗リウマチ効果についての「特徴」や「評価」に関する講演が行われました。特徴として①単薬で効果あり②免疫原性が低い③継続率が高い④費用が安価⑤実臨床のシェア⑥静注 or 皮下注の選択ができる。評価としては、初期における DAS28 や CDAI の点数が寛解へ向けての目安になる。しかし、ごく少数ではあるが血液検査や炎症所見、疾患活動性が低いにもかかわらず症状が進行してしまう人が存在する。そこに関しては検討が必要であり、今後取り組んでいきたいと述べられていました。

【特別講演】

生体イメージング：生きた生物の中にある細胞の動きを見る。特別講演では①骨破壊と骨芽細胞のカップリング、②炎症性破骨細胞に対する抑制の内容を中心に講演が行われました。①では、骨破壊の発生機序に関する基礎的な内容から、生体イメージングを利用したタイプ別(N型/R型)の細胞の働きや薬剤使用における影響など、詳細なデータを基に分かりやすく提示していただくことが出来ました。②では炎症性の破骨細胞について、常に骨を破壊し続ける“悪玉”の細胞に対し、これまでの常識にとらわれない新しい発想での取り組み「正常の細胞を維持しつつ炎症性の細胞を抑制する」事について、生体イメージングを利用した「動く」動かぬ証拠を見せていただくことが出来ました。

～ 感想 ～

当院では生物学的製剤を使用するにあたり、他職種で連携を取り、より患者さんに寄り添えるように、また、共通認識を持つようという事で、リウマチ関連の研修会と一緒に参加しています。今回は、主に薬剤関連の講演会のため、それぞれの職種で得意不得意はありましたが、薬の効果についての話や普段は見る事が出来ない「骨破壊に関与する細胞の動態」を見ることができて、とても充実した研究会でした。

薬剤師 斜木

